

環境経営レポート

2018年版

<2018年9月1日～2019年8月31日>



日信商工株式会社

2019年9月30日発行



エコアクション21[®]

認証番号0012660

目次

1. 会社概要	1
2. 環境経営方針	2
3. 推進体制	3
4. 環境経営目標	4
5. 環境経営計画	5
6. 環境活動の取組み結果と評価及び次年度の取組み内容 . . .	7
7. 環境関連法規制の遵守状況	8
8. 安全活動	9
9. その他環境活動	10
10. 代表者による全体の評価と見直し	12

1. 会社概要

■ 概要

- (1) 社名
日信商工株式会社（英文表記：NISCO CO.,LTD）
- (2) 所在地（本社・工場）
〒335-0032
埼玉県戸田市美女木東2-2-2
- (3) 代表者
代表取締役社長 関口 良平
- (4) 設立
1967年11月
- (5) 資本金
1,000万円
- (6) 事業規模
売上高：717百万円（2018年度）
従業員数：本社28人 熊本事業所14人（2019年8月31日時点）
床面積：本社520㎡ 熊本事業所131㎡
- (7) 事業内容
半導体製造装置機器部品及び関連装置機器の開発設計と製造販売
クリーンルーム内設備機器の開発設計と製造販売
テフロン等フッ素樹脂、その他樹脂溶接・加工
タンク、槽、容器、器具類の開発設計と製造販売
耐薬品用ポンプ、耐薬品制御用バルブの開発設計と製造販売
ガススクラバー開発設計と製造販売
- (8) 環境管理責任者及び担当者
責任者： 長 愛子
連絡先： TEL 048-421-1234
FAX 048-422-0175
URL <http://www.nissin-nisco.co.jp>

■ 沿革

- 1967年11月
東京都板橋区にて日信商工株式会社設立
埼玉県戸田市に営業所及び工場を建設し
半導体製造装置機器部品の開発設計と製造販売を開始
- 1977年9月
第2工場を建設
- 1986年11月
現在地の戸田市美女木工業地区に新工場建設・移転
- 1987年4月
上記同地に本社・営業機能を移転
- 1988年3月
台湾国策による半導体製造工場建設へ参画
- 2014年2月
クラス1000クリーンルームを設置、運用を開始
- 2016年3月
島津製オートグラフを導入、運用を開始

2. 環境経営方針

『地球人としての取組み』

当社は、樹脂製品製造業の事業を通じて環境保全を配慮して行動することを経営の重要課題の一つとして捉え、次の行動指針を定めます。

- ① 二酸化炭素排出量の削減
- ② 化学物質使用量の削減及び適切な管理
- ③ 廃棄物の削減および再資源化の推進
- ④ 排水量の削減
- ⑤ グリーン購入の推進
- ⑥ 提供する製品・サービスにおける環境配慮
- ⑦ 事業活動に伴う環境関連法規の遵守
- ⑧ 環境に配慮した新規事業の創出
- ⑨ 地域環境を良くするための活動の実施

環境教育・訓練の実施により全社員に環境方針の周知徹底を行い、環境保全に関する知識を高め、社内だけでなく地域貢献における環境保全活動を推進します。環境方針は公に開示します。



制定日：2017年10月1日

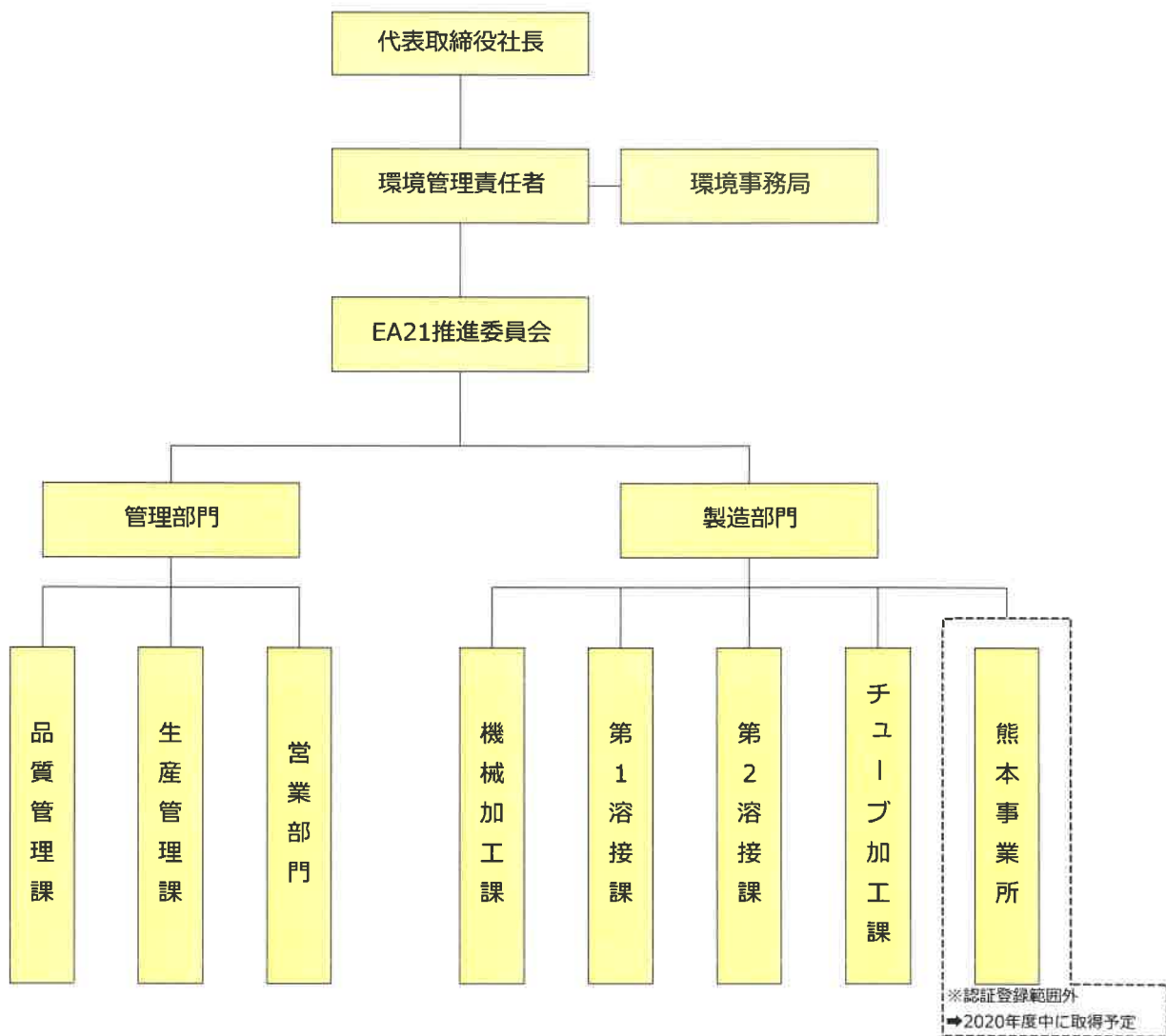
改訂日：2019年6月1日

(環境方針から環境経営方針に変更の為)

日信商工株式会社

代表取締役社長 関口 良平

3. 推進体制



本社・工場（埼玉県戸田市）

4. 環境経営目標

2017年度の環境負荷の実績を基準として、2018年度～2022年度までの環境目標を次のように設定した。

	環境目標	単位	2017年 実績	2018年 目標	2019年 目標	2020年 目標	2021年 目標	2022年 目標
C O 2 排 出 量	CO2排出量	(kg-CO2)	54,686	53,592	52,499	51,405	50,311	49,217
			基準年度比⇒	△2%削減	△4%削減	△6%削減	△8%削減	△10%削減
		(kg-CO2)/百万円	70.75	69.34	67.92	66.51	65.09	63.68
			基準年度比⇒	△2%削減	△4%削減	△6%削減	△8%削減	△10%削減
	電力	(kWh)/百万円	137.43	136.06	134.68	133.31	131.93	130.56
			基準年度比⇒	△1%削減	△2%削減	△3%削減	△4%削減	△5%削減
	ガソリン	(ℓ)/百万円	1.41	1.40	1.38	1.37	1.35	1.34
			基準年度比⇒	△1%削減	△2%削減	△3%削減	△4%削減	△5%削減
廃 棄 物	事業系一般廃棄物	(kg)	実績把握とする	実績把握とする	2018年の 実績把握値から △1%削減	2018年の 実績把握値から △2%削減	2018年の 実績把握値から △3%削減	2018年の 実績把握値から △4%削減
	産業廃棄物	(kg)/百万円	18.6	18.4	18.2	18.0	17.9	17.7
			基準年度比⇒	△1%削減	△2%削減	△3%削減	△4%削減	△5%削減
	有価物	(kg)/百万円	1.71	1.69	1.68	1.66	1.64	1.62
			基準年度比⇒	△1%削減	△2%削減	△3%削減	△4%削減	△5%削減
水	上水使用量	㎡	378.00	374.22	370.44	366.66	362.88	359.10
			基準年度比⇒	△1%削減	△2%削減	△3%削減	△4%削減	△5%削減
	グリーン購入率	%	22	25%以上	27%以上	29%以上	31%以上	34%以上
			基準年度比⇒	1.15%増	1.25%増	1.35%増	1.45%増	1.55%増
	製品サービスの環境 配慮 (梱包資材の削減)	(¥)/百万円	1,150	1,139	1,127	1,116	1,104	1,093
			基準年度比⇒	△1%削減	△2%削減	△3%削減	△4%削減	△5%削減
	化学物質の適正管理	(ℓ)	実績把握とする 実績値 9.4	ラッカーシン ナーの使用率 50%減	年一回のリスク アセスメントを 実施	年一回のリスク アセスメントを 実施	年一回のリスク アセスメントを 実施	年一回のリスク アセスメントを 実施

二酸化炭素排出係数：0.474kg-CO2/kWh（調整後排出係数）

※平成28年度実績 公表：平成29年12月21日 東京電力エナジーパートナー(株)

5. 環境経営計画（1/2）

		活動内容
二酸化炭素排出削減に関するもの	電力使用量の削減	PCの電源プランを省電力に設定する ディスプレイの電源を切る時間を5分に設定する コンピュータがスリープ状態になる時間を30分に設定する PC以外のOA機器も省電力設定にする
		エアコンの設定温度が守られているか確認する 冷房：28度以上、暖房：20度以下
		3ヶ月に1回エアコンの掃除を行う
		3ヶ月に1回照明器具の掃除を行う
	ガソリン使用量の削減	定期点検（タイヤ空気圧・オイル交換）を実施する
		車両記録に、走行距離と給油量を記入し、燃費実績確認による意識付けをする
廃棄物排出量削減、材料の歩留まりの向上に関するもの	事業系一般廃棄物の削減	廃棄物の最終処分先を定期的に、直接、確認する
		打合せや会議でプロジェクターを使用できるよう、全員に教育する
		コピー機利用の際の注意喚起のポップを作りコピー機前に貼り、コピー用紙の裏紙利用を徹底する
		廃棄カッター刃用のゴミ箱を設置し、ゴミの分別を行う
		乾電池用のゴミ箱を設置し、定期的に処分する
		発生したゴミは可能なかぎり圧縮等を行い、減量する
		My箸やMy水筒などの使用を推奨し、ゴミの削減に取り組む
	有価物（廃PFA、PTFE量）の削減	毎月の廃PFA、PTFE量を記録し、各月毎の見直しを行う
		端材を整理し、材料を有効に使用できるようにする
		担当者別の不良率の「見える化」を実施する
	梱包資材の削減	簡易包装の推進、多重包装の見直しを推進する
		緩衝材、段ボールを再利用する
		ガムテープの使用量を減らす
		エアキャップの使用量を減らす

5. 環境経営計画 (2/2)

		活動内容
水使用量削減に関するもの	上水使用量の削減	節水を促す啓発ポスターを制作し水場に掲示し、手洗い時、洗い物においては、日常的に節水を励行する
		作業に支障のない範囲で、節水をできる洗浄方法などを模索し、それらの作業をルール化して運用する
		生ゴミ等は社内の排水口全てにネットを設置し、流出しないようにする
		有害物質や水質汚濁の恐れのある物は、まず社内にそれらに該当するものを洗い出し、使用を止められるものは止め、そうでないものは運用ルールを定めて、それに準ずる
化学物質使用量削減に関するもの	化学物質使用量の抑制及び管理	社内にて使用する化学物質のその種類、使用量、保管量、使用方法、使用場所、保管場所等を経時的に把握し、記録、管理する
		社内にて使用する化学物質のSDS最新盤を年1回入手し、それを管理する
		入手したSDS最新版のコピーを、その化学物質の使用場所に設置する
		社内にて使用する化学物質が法令類に非該当であるか調査する
グリーン調達に関するもの	グリーン購入の推進	再使用またはリサイクルしやすい製品を優先的に購入し使用する
		詰め替え可能な製品の利用や備品の修理等により、製品等の長期使用を進める
		梱包資材の一部を、グリーン購入へ切り替える取り組みをする
その他の環境活動に関するもの	環境コミュニケーション	ホームページ上で環境に関する情報を提供する
	社会貢献	環境に関連する表彰制度を実施する
		敷地内の緑化を行う（大気浄化、都市気象の緩和にも資する）
		会社周辺を定期的に清掃する
		ペットボトルキャップの回収を定期的に行い、寄付する(資源の再利用を行う)
	事業主における建築物の増改築、解体等にあたっての環境配慮	建築物の老朽化や運用の診断を行い、改善や環境保全設備の見直しを行う
		建築物の耐久性の向上に取り組む
		排水設備のメンテナンス、吹き付けアスベストの管理（特に解体時の事前撤去）等を行う

6. 環境活動の取組み結果と評価及び次年度の取組み内容

	環境目標	単位	2017年 実績	2018年 目標	2018年 実績	達成状況	評価	次年度の取組み内容
C O 2 排 出 量	CO2排出量	(kg-CO2)	54,686	53,592	54,507	×	目標削減値に届かず、1%削減に留まった。	
			基準年度比⇒	△2%削減				
		(kg-CO2)/百万円	70.75	69.34	75.94	×	7%増加 電気、ガソリン使用量ともに増加してしまった結果、目標達成できなかった。	
			基準年度比⇒	△2%削減				
	電力	(kWh)/百万円	137.43	136.06	152.88	×	11%増加 残業、休日出勤など、定時時間外での稼働が影響し、11%増加という結果となった。	断熱シートなどによる冷気残量、休日出勤など、定時時間外での稼働が影響し、11%増加という結果となった。
			基準年度比⇒	△1%削減				
	ガソリン	(ℓ)/百万円	1.41	1.40	1.49	×	5%増加 納期遅延などによる取引先への持込納品の回数が増えたことで5%増加となった。	車両の定期点検や運転方法の配慮も必要だが、納期管理し持込納品を減らすことを目標として追加する。
			基準年度比⇒	△1%削減				
廃 棄 物	事業系一般廃棄物	(kg)	実績把握とする	実績把握とする	2246.77	-	年間の一般廃棄量が把握できた。	2018年度を基準として、マイ箸、マイ水筒、マイバック運動を呼びかけ、廃棄量の削減活動に取り組む。
	産業廃棄物	(kg)/百万円	18.6	18.4	12.4	○	33%と大幅に削減された結果となったが、基準年とした2017年度に不要な材料類の処分を行い廃棄量が一時的に増えているデータであったことが発覚した。	基準年を2018年とし、1%削減を目標とする。
			基準年度比⇒	△1%削減				
	有価物	(kg)/百万円	1.71	1.69	0.98	○	43%と大幅に削減された結果となったが、熊本事業所での加工品増加により、本社での廃棄量が減った事が影響した。	基準年を2018年とし、1%削減を目標とする。
			基準年度比⇒	△1%削減				
	水	上水使用量	378.00	374.22	370.00	○	目標値を上回り3%削減が達成できた。	本年度に引き続き、全社員協力のもと取り組みを進めていく。
			基準年度比⇒	△1%削減				
	グリーン購入率	%	22	25%以上	40%	○	目標値を大きく上回り、40%の購入率となった。社屋改築時の購入品が対象品であったことが大きい。	本年度に引き続き、全社員協力のもと取り組みを進めていく。
			基準年度比⇒	△1.15%増				
	製品サービスの環境配慮 (梱包資材の削減)	(¥)/百万円	1,150	1,139	1,001	○	目標値を大きく上回り、13%の削減を達成できたが、出荷数量が減少したこと起因している。	次年度は、梱包資材を環境に配慮したものに切り替えることを目標とする。
			基準年度比⇒	△1%削減				
	化学物質の適正管理	(ℓ)	実績把握とする 実績値 9.4	ラッカーシンナーの使用率 50%減	ラッカーシンナーの使用を廃止しアセトンへ変更	○	ラッカーシンナーの使用を廃止した。	IPA、アセトンを適切に管理し、定期的なリスクアセスメントを実施する。

二酸化炭素排出係数：0.474kg-CO2/kWh（調整後排出係数）

※平成28年度実績 公表：平成29年12月21日 東京電力エナジーパートナー(株)

7. 環境関連法規制の遵守状況

1. 廃棄物、リサイクル

遵守評価日 2019年8月1日 【評価】遵守：○、不遵守：×

廃棄物処理法、市廃棄物処理と再生利用条例		条項	実施状況	評価
一般	許可業社と契約し、委託しているか	6条の2	株式会社クリーンシティと契約書あり	○
	市の分別基準を遵守しているか		遵守している	○
契約	収集業者との処分業者と個別に契約しているか	12条	株式会社クリーンシティ・株式会社FUJIの契約書あり	○
	委託品目が許可されているか	〃	許可されている	○
マニフェスト	B2票、D票は90日以内に、E票は180日以内に戻っているか	〃	戻ってきている	○
	マニフェストを5年間保管しているか	〃	保管している	○
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書	〃	提出している	○
保管	種類、管理者名、保管量を表示しているか	〃	表示している	○
	飛散、流出、悪臭がない様になっているか	〃	している	○
資源有効利用促進法		条項	実施状況	評価
廃パソコン、携帯電話の回収をメーカーに依頼したか			期間中廃棄なし	○
自動車リサイクル法		条項	実施状況	評価
自動車リサイクル券があるか		-	車検証内にあり	○
廃車時に自動車引取業者に渡したか		8条	期間中廃棄なし	○
家電リサイクル法		条項	実施状況	評価
家電を廃棄するときに料金を支払い、リサイクル業者に渡したか（家電リサイクル券があるか）		6条	期間中廃棄なし	○

2. 公害（大気関係）

自動車NOx・PM法		条項	実施状況	評価
ディーゼル車はNOx・PM対応車か（車検証で確認する）		12条	車検証で確認済	○

3. 温暖化、化学物質、関連法規

フロン排出抑制法		条項	実施状況	評価
業務用エアコン、冷暖機器類を廃棄するときに、登録しているフロン回収業者に回収させたか		19条	期間中廃棄なし	○
フロンマニフェストを3年間保管しているか		20条の2	委託確認書の確認	○
室外機及び室内機の点検		16条	簡易点検実施済	○
グリーン購入法		条項	実施状況	評価
グリーン購入法購入に積極的に取り組んでいるか		5条	エコアクション21で取り組んでいる	○
グリーン購入比率、又は購入件数の目標を設定し取り組んでいるか		8条	エコアクション21で取り組んでいる	○
道路運送車両法		条項	実施状況	評価
自動車の使用者	定期点検を行っているか（例 自家用トラック：6ヶ月に1回、乗用車：1年に1回）	48条	実施している	○
	点検整備記録を車両に備えているか	48条	備えている	○
水銀使用製品産業廃棄物		条項	実施状況	評価
廃水銀等が適正に処理されているか		8条	エコアクション21で取り組んでいる	○
リスクアセスメント		条項	実施状況	評価
リスクアセスメントを実施しているか		57条の3	エコアクション21で取り組んでいる	○

4. 県条例、市条例

埼玉県生活環境保全条例		条項	実施状況	評価
アイドリング	アイドリングストップを行っているか	40条	行っている	○
戸田市生活環境保全条例		条項	実施状況	評価
廃棄物	廃棄物の処理その他の公害を防止	5条	行っている	○

手順 1. 環境管理責任者は法規の制定、改定の情報に注意を払い、法規の改定に応じて本表を改定する。

使用停止後3年間保管

2. 環境管理責任者は毎年3月頃までに遵法性をチェックして、本表に記入する。

環境法規等の逸脱はありませんでした。

また、過去5年間にわたって、違反や告訴も1件も発生しておりません。

安全活動

■緊急事態の対応及び訓練状況

火災発生時訓練（2018年12月14日実施）

2回目の消防訓練。

戸田市の消防士さんに来ていただき、通報訓練、避難訓練、水消火器による模擬消火訓練を実施しました。



みんな真剣に消防士さんのお話を聞いています。



近藤さん、右足の踏み込みがすごい！（写真一番左）

訓練自体は問題なく実施できたのですが、寒空の下だったため、寒いから次回は温かい時期にしてくださいとの苦情が殺到。。。はい。。。すみません。次回は秋ごろに実施します。

その他環境活動

■会社周辺の清掃を月一回（第二月曜）に、社員全員で清掃活動を行っています。



社屋前の道路の清掃をしています



みんなで協力して取り組んでいますよ



川崎課長、笑顔でお掃除♪素敵ですね～



細かいゴミまで残さず拾っています



たばこの吸い殻のゴミが多いんです
ポイ捨てしないでくださいね



道路がきれいになりましたね～

その他環境活動

■産業廃棄物の中間処理施設への実施確認

2019年6月5日（環境の日）に産業廃棄物の中間処理施設に行ってきました



株式会社FUJI様建屋前にて



株式会社FUJI様の工場長より、施設内をご案内いただいているところ

写真左：エコアクション21審査員 今仁様

写真中央：株式会社FUJI工場長 藤原様

写真右：弊社代表取締役社長 関口



作業員の方々が、ひとつひとつ手作業でゴミの分別をされていました



圧縮されたゴミ

総評

産業廃棄物処理業者チェックリストに基づきチェックをした結果、特に問題は見つかりませんでした。



株式会社FUJI様、建屋入り口にて

写真右：弊社代表取締役社長 関口

写真左：環境事務局 石嶋

代表者による全体の評価と見直し

【環境経営方針】

本活動が2018年度2期目に入り、各項目の目標設定の高度化を推進、定期活動報告会での全体把握をする中で新たな取り組みと成果を共有し、継続的に活動が行われる様に項目別達成状況の掲示をし、全社で知恵を出し合い、数値目標、外殻目標を常にウォッチすること。

【環境経営目標及び環境経営計画】

常に社発展要素を考慮する中で、如何に目標設定→達成出来るかを本活動に練りこめるかを柔軟に対応すること。

【環境経営システムの各要素】

現状に留まらず、常に変革を起こす企業風土の醸成。世界に目を向け、今、何が起きているか、我々に何が出来るか、全社で環境意識向上を掲げ、企業経営の重要課題として変化を起こすこと。

代表取締役社長

関口 良平